

「運動会」へのご参観ありがとうございました。

副校長 小林 寿典

令和6年度石神井西中学校「運動会」が6月1日に行われました。天候の不安定な中、まるでお祝いをしてきているかのようにピンポイントで晴れ間がひろがりました。そして、来賓・関係者を除くと1,427名という多くの保護者の方々にご来校いただきました。心より感謝申し上げます。

さて、石神井西中学校では「生徒主体」で行う運動会を目指し、実行委員をはじめ多くの係生徒が責任感をもって臨んでくれました。やればできるというよりも、大人が我慢して生徒たちに任せるということが必要で、生徒の成長を第一に考える教員の考え方をリセットすることが何よりも重要であると実感しました。

教員は、生徒の安全やトラブルを回避しなければならないという責任感があります。そして、大人が我慢することの難しさを克服するのに数年かかりました。まだまだ、生徒の皆さんでできることはたくさんあります。石神井西中学校の生徒の皆さんの活躍を大いに期待しています。

そこで、ふと考えてしまったのですが・・・

運動会と体育祭は何が違うのでしょうか。

「運動会」と「体育祭」の大きな違いは誰が主体となって開催しているかだそうです。幼稚園や小学校で行われる「運動会」は先生が準備や運営の中心になり進行されます。また、土日に開催されているのも、保護者が参加しやすいようにしているためです。一方、「体育祭」になると先生はサポートに回り委員会や学級といった生徒が中心になり進行していきます。土日の開催が減るのは「運動会」とは違い、保護者に見てもらおうというより、自分たちのために開催するという色合いが強くなるためです。ではなぜ、「運動会」は教員主体で「体育祭」は生徒主体なのでしょう？それは、「運動会」と「体育祭」でそれぞれ目的が異なるためです。

運動会：生徒の成長が目的

文部科学省によると、幼稚園や小学校と中学校や高校で「運動会」や「体育祭」といった特別活動の目的が異なって記されています。小学生の「運動会」は楽しみながら、集団行動や連帯感を培い、学校生活を充実させるのが目的です。中学校からは集団行動への意識は持ちつつ、より個人の成果や役割を果たす目標を掲げるようになります。学校行事は、集団への所属感や連帯意識を深めつつ、社会的自立や社会貢献を念頭に置いた体験活動、実社会の中で共に生きること働くことの意義と尊さを実感する機会をもつことが重要です。「体育祭」は、より実際の社会での生活を意識した役割に変わっていきます。クラスや委員会の中での自分の役割や活躍を重視するようになるのが特徴です。つまり、多くの高校で実施する「体育祭」では、普段の授業での成果を発揮し、集団において自分の役割を果たすのが目的になっています。

石神井西中学校の「運動会」は、「運動会」の要素も含めながら「体育祭」のように集団において自分の役割を果たすのが目的で行われている、一歩先行く「ハイブリッドな運動会」ということです。ネーミングにこだわりはありませんが、先生たちは安全を確保しながら、生徒の皆さんが責任をもって行事を遂行していくことに、普段の生活では得られない大きな成長を遂げることを期待して実施しています。生徒の皆さんには、もっと自信と誇りをもって、これからの学校生活を過ごしてほしいと願っています。まだまだ行事はたくさんあります。生徒の皆さんが活躍する姿を想像すると、今からワクワクします。